

令和6年度（第2回）
水稲病害虫発生状況調査及び生育調査の結果について（通知）
【実施日 令和6年8月6日（火）】

中播磨農作物病害虫防除研究会

1. 水稲病害虫発生状況

《いもち病》

今回の調査では、葉いもちの発生が大半の調査ほ場(10ほ場/14ほ場)で見られ、特に1ほ場では調査株全てで症状が認められました。

葉いもちの発生が多い場合は、今後穂いもちの発生が懸念されます。ほ場を注意深く観察し、出穂前の防除は必ず実施してください。

《紋枯病》

今回の調査では、紋枯病は調査ほ場の大半(9ほ場/14ほ場)で見られました。

気象条件等によっては紋枯病が広がる可能性がありますので、注意深くほ場を観察してください。

《ウンカ類》

今回調査した全てのほ場(14ほ場/14ほ場)においてヒメビウンカ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイのいずれかの発生がありました。今後もほ場観察を行い、栽培暦に準じて防除を行ってください。

また、今回の調査では、トビイロウンカ(秋ウンカ)の発生は見られませんでした。今後、気象条件等によっては発生することがありますので、注意深くほ場(稲の株元付近)を観察してください。

《カメムシ類》

一部のほ場(3ほ場/14ほ場)において斑点米カメムシの発生が見られました。

不稔の原因となるイネカメムシの発生も見られました。

令和6年8月2日、兵庫県病害虫防除所から『令和6年度病害虫発生予察注意報

第2号』で斑点米カメムシ類の多発生が発表されています。

イネカメムシの防除は、出穂期とその7～10日後の2回防除を実施します。なお、粒剤を施用する場合、効果が得られるまでに数日かかることを考慮してください。今後も、ほ場を注意深く観察し、必要に応じて防除を行ってください。なお、これから出穂を迎える品種では、出穂の2週間前までに畔の草刈りを完了して下さい。

※ 防除についてのお問い合わせは、JA兵庫西又は普及センターにご相談ください。

2. 生育調査結果

品種名	平均草丈 (cm)		1株当たり平均茎数	
	令和5年8月2日	令和6年8月6日	令和5年8月2日	令和6年8月6日
コシヒカリ	101.6	107.6	14.4	23.4
キヌヒカリ	101.0	86.6	23.7	12.1
兵庫夢錦	76.5	79.2	17.6	18.3
きぬむすめ	80.9	83.7	18.0	18.2
ヒノヒカリ	83.4	70.7	23.3	19.1